Initiatives of Change
一人ひとりのチェンジで信頼を築く

IC ニュース NEWS

Vol.40

公益社団法人　国際IC日本協会

発行年月日 2024年1月20日
発行所 公益社団法人 国際IC日本協会
〒160-0004 東京都新宿区四谷4-28-20
パレ・エテルネル206号
TEL：03-6273-1428 FAX 03-6273-1429
E-Mail：info@iofc.jp HP：http://iofc.jp
<International IofC>HP：www.iofc.orc

頒価 1部 200円

MRA ハウスからの 40 年間のご支援に感謝　会長　藤田　幸久

新年おめでとうございます。

【MRA ハウスの支援で社団法人の認可】

本年は、財団法人 MRAハウスからのご支援を頂いてから40年を迎えます。

公益社団法人国際 IC 日本協会のスタートは、1975 年設立の国際 MRA 日本協会（土光敏夫会長）でした。その協会は 1984 年に文部省から社団法人の認可を受けました。同じ目的を持つ法人は一つしか認可しないという政府方針がある一方で、MRA ハウスは既に文部省認可の財団法人であり、これを克服することが最大の難題でした。そこで、ハウスの渋澤雅英代表理事に相談したところ、「ハウスと日本協会は同じ目的を掲げるが、全く異なる事業を行っているので認可して欲しい」と文部省にお願いして下さり、認可を頂きました。しかも、ハウスから設立に必要な基本財産の 1 千万円を寄付頂き、以来毎月の寄付も頂いております。

【ハウスと日本協会との役割分担】

MRA ハウスは 1952 年に設立され、戦後日本の国際社会復帰や各国との和解活動などを担いました。

1962 年には「アジアセンターODAWARA」を建設し、開所には池田勇人首相を初め内外の要人も出席しました。国交の無い韓国の金鐘泌氏（後の首相）の出席も認められ、太平正芳外務大臣との「太平・金メモ」が3年後の日韓国交正常化につながりました。

渋澤さん、矢野名誉会長と（2022年）

1960年代後半から、ハウスは MRA移動学校、Sing Out、日本外語教育研究所、東南アジア諸国との知的交流など時代に叶う事業を展開しました。これらと渋澤さんの私財によって、センターの建設費が 30 年かけて完済されました。

他方、スイスや英国などのMRAとの連携や日本の労使関係などの活動も継続したいとの趣旨で、相馬雪香さんや柳沢錬造参議院議員などが 1975 年に国際MRA日本協会を設立しました。1980年代からは、協会主催の国際フォーラムは毎年アジアセンターODAWARA で開催しましたが、耐震基準の関係でセンターは 2007 年に閉鎖されました。現在、東京都麻布の MRA ハウスも用途地域の関係で新しい多目的ビルに生まれかわり、その一角に事務所が存在します。

【ハウスからの支援見直し】

昨年 9 月 MRA ハウスの渋澤田鶴子（渋澤雅英氏息女）、平田洋樹（中嶋勝治氏子息）の両代表理事から、新体制への移行に伴い、主要支援団体に対する支援方法を見直すことになった、とのご連絡を頂きました。

当協会の最大の収入に当たる賛助会費を2026年度から削減し、事業助成のみを行うとの方針です。事業助成は「“人種、宗教、信条”の違いを超えて、“国家、民族、階級”間の和解の推進に努力してきた財団が、21 世紀の戦争、紛争、難民、差別、格差と貧困、そして独裁政治、非民主的政治、地球環境問題、パンデミックなどの大きな課題を見据え、「日本とアジアの未来」のテーマで助成する、との趣旨です。

IC NEWS の前号（39号）でも述べましたように、有事の今こそ IC の新たな出番でもあり、この事業助成の趣旨とも一致するものです。

開所式での池田首相（左）、渋澤さん（右）
後方は十河国鉄総裁

従って、この2年間は、今後継続的に助成を頂ける事業を瀬踏みしながら、協会活動のゼロからの見直しと、スリム化を図って行く必要があります。

改めて、MRA ハウスからの 40 年間のご支援に心から感謝を申し上げます。

そして、皆さんのお知恵を頂きながら、この局面を乗り切っていきたいと思います。是非お力をお貸しください！

本年も 1 年間よろしくお願いいたします。

お詫びと訂正
ICNEWS39 号の Imad Karam 前国際 IC 専務理事は、専務理事 の間違いでした。
お詫びして訂正いたします。

2024年から次の12年へ向けて再スタートしたい　副会長・専務理事　足立 憲昭

皆さま、新年を迎えてお元気におすごしでしょうか。

私は、昨年で72歳を迎え（還暦から12年）、次の12年(最終年は84歳)の人生計画を設計しました。

そして、人生の最後の瞬間まで、チャレンジし続ける、3つの目標を立てました。

一つ目　もう一度、マラソン大会に復帰して若者たちと競い合うこと

二つ目　手作り料理を「妻と二人」で作り、仲間たちに提供すること。

三つ目　これまでと異なるジャンル（女流作家を中心）の書籍を読み、新たな視点を持つこと。

まだ2～3年は、現在の仕事（審査員）を続けられそうですが、仕事はアルバイトであり、大切なのは残された次の12年を「妻を中心に、二人で励まし合い、ゆっくり、ゆったり、楽しく過ごす」ことです。

さて、私は昨年秋ごろ、藤田会長に公益社団法人 国際IC日本協会の理事を退任したいとお願いしました。会員の皆さまに大変お世話になりました。

私が就任させていただいた約8年間、IC協会の混乱を田中さんと共に再構築し、その後コロナ禍の4年間でした。一昨年、コロナ禍から抜け出しましたが、一方でウクライナ紛争が勃発しました。

さらに、パレスチナ紛争まで起こり、多くの尊い人命が失われて、その数が増え続けています。一方で、「生成ＡＩ」が本格的に活用され出し、多くの職業が変革を迫られています。

このような中で、日本を長らく牽引してきた「団塊世代」が後期高齢者となり、第一線から退いたため、あらゆる場所で労働人口が急激に減少しています。

私は、「団塊の世代」の次の世代ですが、「日本が華やか時代」を経験し、その恩恵も受けてきました。でも子供たちの世代は「就職氷河期」で、スタートから厳しい環境に晒されてきました。他にも「失われた30年」などと、停滞し続けた日本経済を、常にネガティブな表現が使われてきました。

これも「華やかな日本」が捨てきれずにきた結果だと思います。常に「過去には学ぶが、過去から脱皮すること」が大切ではないでしょうか。

嬉しいことにスポーツ選手たちは、早い段階から「グローバルな大会」を勝ち抜こうとして、世界に飛び出し、その中から、海外が注目する若者たちが出てきました。同様に、ビジネス界での起業家たちも「世界市場」に活躍の場を設けています。

今までなかったような、彼らの活躍を励ましに、私も次の12年を悔いのないようにスタートしたいと思っています。

最後に、2024年が会員の皆さまにとって、健康で幸多い年となることを祈念いたします。

新年を迎えて　監事　道畑　剛作

明けましてお目出度うございます。

令和6年、2024年という新しい年を、皆様はどの様なお気持ちで迎えられたでしょうか。長い人生の中では、”思いも寄らぬこと“が時々起こります。世界を見渡せば、2001年のアメリカ同時多発テロ、2011年の東日本大震災などであり、近年では、ロシアによるウクライナ侵攻や、イスラエル・ガザ紛争等です。

国際IC日本協会（IC協会）に直接関係のある身近な”思いも寄らぬこと“は、IC 協会が今まで多大の御支援を受けてきたMRAハウス様の支援方針が大きく変更されるという話が聞えてきました。

現在、先輩会員の方々が営々と築いてこられた歴史と伝統のある当協会は、ご支援方針が変更された以降も、当協会が存続し活動が継続出来るよう、態勢の改革が求められています。

このため　藤田会長を中心とする理事会において、態勢改革の方策を案出するための改革構想策定委員会の設立が決定されました。改革構想案の案出は、本年 10月が期限とされています。

藤田会長が主導されるこの対応に関して、自分が経験した32年間の航空自衛隊勤務（新製航空機の試験飛行に携わる組織での各級指揮官や、航空自衛隊総合監察実施時の次席監察官などを経験）及び，その後の一般企業勤務などを通じて培った判断力や思考力を基に、微力ながらも、その一助となりたいという思いが、新年を迎えての私の強い気持ちであります。

初めの一歩　川勝　鋼太郎

全く慌ただしい年だった。

国内では私立大学内部の風紀の乱れが世間を騒がせ、秋にはまたまた政党の経理の不明瞭さが浮かび上がった。近隣諸国との関係もますます緊張が深まったようだ。

海外ではロシアのウクライナへの侵攻が止まず膠着状態だ、イスラエルでも戦闘が始まり、根の深そうな様相を呈している。世界はこれらの抗争に振り回されているように見える。

来年はどうかとなると、アメリカの大統領選の結果が世界情勢に大きく影響するのは確実だろうし、平和の祭典である筈のパリ五輪もテロなどがなく平穏裡に終幕するのを祈りたいもの。

日本でも今年の見通しは決して明るいと言えないだろうが、長年のデフレが日本の停滞の主因だという論評がある。大まかに言えばまあまあ平和で、大きな経済の変動もなく過ごしてきたからツケが回って来たと言うことだろう。

一方 海外では近隣の戦争で武器の供与が国家予算の切実な問題になっている国もあるし、戦禍や政情不安定から遁れて来た多数の難民を受け入れに苦慮している国もある。

それを知ったからと言って地理的な関係もあり日本はそれほどの援助等は出来ないという指摘もあろう。

しかし一方では　遠距離にいて、平和が保持されているのをメリットとして、国際協力を推進させる可能性もあるのではないか。日本には産業インフラの潜在力もまだ残っているし、新技術の開発等のまだ得意とされる分野で日本が世界に貢献出来る余地は残っているだろう。

老人の初夢になるかも知れないが、むしろこれを奇貨として世界は一つと言う自覚を持つためにも 誰もが国際情勢に関心を持つのが初めの一歩と思われる。

チームミーティング　どこにいても　中嶋　良樹

現在、会員同士の親睦と相互理解により信頼できる仲間作りを目指し、チームミーティングを毎月第４土曜日に IC 事務所で開催しています。

Zoom 併用ですので、どこにいても参加頂けます。

昨夏は、スイス・コーの世界会議に出席された藤田会長夫妻が、早朝のコーから会議の内容をリアルタイムで知らせて下さいました。

毎回のチームミーティングでは、参加者の地元の情報や、静かな時間のシェアが話されます。

最近の例では、横浜地区の地域ケアプラザで行われている高齢者や子供、障害のある方の為の様々なプログラムやボランティア活動の紹介がありました。

また、古くからのメンバーであるヒュー・ウイルキンソン氏（青山学院名誉教授）を川勝鋼太郎氏が訪ね、今もお元気に過ごされている旨、報告がありました。

こうした身近な話題は、グローバルな視野、平和を目指す理念から程遠いように思いがちですが、自分たちにできる小さな実践の積み重ね、チーム作りに大切ではないかと考えています。

Zoom の操作が苦手な方は遠慮なく事務局にご相談下さい。

一月のチームミーティングは、27 日（土）を予定しています。

皆様の参加をお待ちしております。

私たちのデジタル化社会のために　国際 IC 九州サークル　小野　實信（おの　みのぶ）

私は、国際 IC 九州サークルに参加させていただいたばかりの新人会員ですが、図らずも、昨年３月 4、5 日開催の国際 IC 日本協会九州サークル勉強会において、［デジタル化社会］をテーマとした発表機会をいただきました。

～私は、高齢者としてこの変革時代を如何に生きていくか？～　デジタル化社会とは？　大変革の時代？どういう社会変革なのだろうか？等々、種々，情報収集，調査勉強していく中で、令和３年情報通信白書第３章【「誰一人取り残さない」デジタル化の実現に向けて！】の記事に出会いました。今後、デジタルの社会への定着を図るには、全ての人にデジタルの恩恵を受けられる機会を与える「誰一人取り残さない」ための取組が必要となる、と記述されております。まさに、高齢者の私もこのデジタル化社会からとり残されないように！の思いで、［デジタル化社会について］、取組みを始めました。

［デジタル化社会実現に向けての取組みテーマ］については、［AI 利活用のシンギュラリティ情勢？（AI が人間を超える？）］のテーマを中心として、デジタル化社会の仕組み・課題・安全性等に関わる情報データについて、理解・認識を深めることを意識しながら、更なる新情報収集に努める事と致します。

［九州地域デジタル化社会の実現に向けて!!～九州サークルの活動計画～］新年にあたり、九州サークル勉強会の具体的活動計画を提案の上「私たちのデジタル化社会」の実現を目指し会員皆で議論し各々の現場で発言していきます。

ソウル通信（第3回）　岡本　あんな

韓国で先日、８歳の女の子と関わる機会がありました。日本語を勉強している韓国人記者と連絡を取っていたところ、日本人の私に関心を示しているということで会うことになったのがその方の小学２年生の娘さんです。

事前にその子が私への質問リストを作成していると連絡を受け、どんな質問が飛んでくるのかと内心ヒヤヒヤしましたが「誕生日は」「通っていた小学校は」といった私個人に対する質問でした。この10年ほど日韓交流などに関わってきた経験から、私はてっきり日韓関係について聞かれるのかと思っていたのです。国際交流が、個人の付き合いから始まるということを思い出しました。

私も小学４年生の頃に、学校訪問プログラムなどＩＣの活動で日本に滞在中だった韓国のチェ・ヒジンさんと出会い、よく遊んでもらいました。日韓が緊張関係にあった時期も、自分が直接触れた「韓国」があったことでメディアやインターネットの情報に流されることはありませんでした。

今回私が出会った子は一緒にいる間ずっと恥ずかしがって、しっかり話せませんでしたが、ポケモンやジブリのキャラクターが好きだということをアピールしてくれました。韓国の子どもたちが、幼い頃から日本に興味を持ってくれているのはうれしいことです。今後も定期的に交流することで、今度は私が韓国の子といい関係を築きたいなと考えています。

車総裁（右）と

IC 交流会「木彫り教室」　加藤　亮子

私は木彫りに人生の半分近くを過ごして来ました。NHK 文化センターなどのカルチャー教室で３０年間教えてまいりました。
長い年月を培ってきた木に触れていると安らぎを感じます、健康にも良いのでしょうか。
彫っているだけで夢中になって時間の過ぎるのも忘れてしまいます、きっと木の精が宿っているのかも知れません。

「木彫り教室」はどんなものですか？と、よく聞かれます、是非、教室をのぞいて見て下さい。木彫りを通して皆さまと楽しいひと時を過ごせることを願っております。

体験・見学も受け付けておりますので事務局までご連絡下さい。

加藤先生

生徒作品（河井さん）

生徒作品（田中さん）

加藤先生作品

事務局からのお知らせ

皆様、明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願い申し上げます。

定時会員総会の日程が近づいてきました。今年の総会は 3/23（土）、11：00 ～ 12：30 の予定で、事務所を会場としてオンライン（ZOOM）併用で行われます。

ご参加のご案内、事業報告書、決算資料、議決権行使書等、事前に送付させていただきます。よろしくお願い申し上げます。